



申11号「2024年度夏季手当に関する申し入れ」回答を受け議論をおこなう!③

(組合) 確かに賞与の議論で、生活費や物価上昇の話をするのもお門違いではあるが、もう少し生活に踏み込んだ検討をしてもらいたかった。今回の黒字を糧に、会社持続的に成長させていかないといけないのも分かる。親会社でもウェルカムバック採用といった施策をおこなっているが実際のところ波及はしていないようだ。

(会社) あちらのものとは性質が違う。向こう側は、異業種などで経験した経験値をまた自社に戻り新たな分野で活かして貰いたい、言わばポテンシャル採用の延長線のようなものだ。当社の場合は、基本的には乗務員を正社員退職された方を対象にし、当時と限りなく近い待遇で採用するといったもの。

(組合) 昨今の人材流出と確保、会社の体質がこの回答書の中身に反映されているのではとってしまう。**希望を見いだせない。経営判断であったり経営責任であったり、そういったものが見えてこないし、触れられてもいない。昔よく言った「内部論理からの脱却」が見えてこない。その象徴として本社社員の退職が多かったのが事実としてある。現場から見ても、経営側の人材の退職が相次ぐのは心配になってくる。**今いる総合職も将来が心配である。

(会社) 本社機関も昨今の業務ユニットの刷新、効率化によって**個々に降りかかる業務が多くなっているのも事実**である。退職に関しては個人の判断になってくるので慫慂しているつもりも全くない。

(組合) 設備投資の計画が決まっているが、見直しの予定などはないのか。

(会社) 最低限経営に必要であるポイントを実施していきたい。車両購入も減価償却として数年間で計上、償却していく。確かに今までのコロナ禍、人件費に重きをより置いてきた事実がある。だから今を軽視している訳ではないが、そのウエイトの比重は変わりつつあるのは確かだ。しかし、よく**「こんなにモノへ投資するなら人件費へ」という声があるがこれはまた違う。会社の財政としてみればひとつだが、それぞれを一緒にたにして考えている訳でもない。人件費は人件費で考えている。**

(組合) 今回の決算や計画の数字、経営の考え方について、財務部からの意見を伺いたい。

(会社) 財務からみて、今の経営を従来と比較すると、**減価償却費が抑えられすぎてしまっているという認識がある。事業投資が疎かという訳ではないが、少なすぎるという認識である。理想的には毎年計画的に設備の更新が出来ていくのが理想。利益率についてだが確かに昨年度は、累計黒字は達成したが、利益率で見ればコロナ前よりは落ちている。完全なる業績連動という賞与、貴側のいう満額への道のりはまだまだ程遠いと思っている。利益率は高めれば高いほど良い。正直、高速車に関しては早く更新したいと思っている。**

(組合) まだまだ発展途上ではあるが、会社は更に筋肉質になり、これからも成長を続けていく認識を確認したい。職場では経営はすべて1つの財布から支出していると思っている。そうではないということをしっかりと職場にも説明して貰いたい。

(会社) 了解。何度も言うが会社の持続的な成長が、社員への還元にも繋がる。また昨今業務量が増えたという認識だが、一度コロナで落ちてしまった業務量がそこからまた増えつつあるので仕事が多くなったと判断してしまっている。実際にはコロナ前と比較すると年間の労働時間はまだ少ない。

(組合) 職場の受け止めは人それぞれあるが、これから職場の声を集約していきたい。今回はどのような数字で推移し積みあがったのか。

経営判断や経営責任といったことが見えてこない。「内部論理からの脱却」をしなくてはならない!